

リュックの中の宝物



アイコクアルファ株式会社

リュックの中の宝物



はじめての一步 2
宝物ってなんだろう

仲間とともに 18
気づきの日々

新しい旅立ち 36
宝物を広い世界へ

「世界中の動物がしあわせになりますように」
大きなアカシヤの森の奥で、
うさぎたちが想いをこめて小さな会社をつくりました。

うさぎたちは不思議な「リュック」を背負い、
会社で見つけた宝物をしまうことにしました。

それからいく度目かの春、子うさぎたちも森の会社で働くことにしました。

子うさぎたちには「リュック」と、

「いっしょうけんめいより、おもしろおかしく」

「りっぱな人より、あなたらしい人に」

「会社の立場で考えず、あなたの立場で会社のことを考えて」

という、3つの大切な想いが託されました。



子うさぎたちはワクワクしながら働き始めました。

そしてお兄さんうさぎもワクワクしていました。

なぜって1年ごとの「リュックの中の宝物」発表会で、
子うさぎたちがいうことを早く聞いてみたかったのです。

1年がたち発表会の日、
みんな目をキラキラさせて自分の「宝物」について話します。

「はじめてのお給料で両親にごちそうしたこと」

「困ったとき、いつもみんなに助けてもらったこと」

「お兄さんにほめてもらったこと」

「知らないことは聞けばいいんだって教えてもらったこと」

みんなの発表を聞いて、お兄さんうさぎもうれしそうです。



そして2年目の発表会でも、
子うさぎたちは夢中で自分の「宝物」について話しました。

A white rabbit with long ears, wearing a red jacket with yellow trim, is holding a large saw. The background is a solid pink color.

「少しだけ一人で仕事が
できるようになったこと」

A white rabbit with long ears, wearing a red jacket with yellow trim, is shown from the chest up. A thought bubble above its head shows a smaller version of the same rabbit. The background is a solid light blue color.

「ぼくはお兄さんが
いつも見守ってくれること」

A white rabbit with long ears, wearing a red jacket with yellow trim, is shown from the chest up. A small lightbulb is glowing above its head. The background is a solid orange color.

「仕事の計画の立てかたを
教えてもらったこと」

お兄さんうさぎは今回も
ニコニコみんな話を聞いていましたが、
少し考えこんだようにも見えました。



こうして3年がたったある日、
お兄さんうさぎは子うさぎたちにいました。
「今日は君たちだけで宝探しゲームをしてごらん」



「どうしたら
いいんだろう。
困ったな」



「一人で分からないことは、
みんなで相談したらどうかな」



「よし。
みんないつも
してることを
いってみて」



「わたしはね…」

「ぼくはね…」



一人ひとりいつもしてることをいってくと、
子うさぎたちにも
どうすれば宝探しゲームができるのか分かってきました。



「みんなでいつもするように
すれば大丈夫だよ」



「本当だ。
でも足りないところがあるよ」

「できる人が一人で二役をしたらどう？」



「じゃあ、
わたしは
これとこれ」



「ぼくは、
こことあっちも
やるよ」

「そうしよう」



こうして子うさぎたちはゲームをやりとげました。
そして自分たちだけで「宝物」を見つけたおかげで、
「自信」のようなものが生まれるのを感じました。

4年目を迎え、
子うさぎたちも大きくなりました。
でも大きくなるにつれ、
いままでなんでも教えてくれた
お兄さんうさぎに「あなたならどうする?」と
なにかにつけて質問され、
困るようになりました。



そこで子うさぎたちは
リュックの中の宝物を持ちよって
相談することになりました。

「まず自分の目と耳で確かめなくちゃ」
「それからよく考えること」
「そして自分の意見をいうんだ」
「じゃあ考えても分からないときは?」
「正直に分からないっていえばいいよ」

でも、なにが分からないんだろう?



それから数日たっても子うさぎは一人で
「なにが分からないのか？」を考え続けていました。
そんな子うさぎにお兄さんうさぎは
「仕事の計画を立ててごらん」といいました。



「そうか、自分がなにをしなきゃいけないのか、
自分できちんと分かっていなかったから
なにが分からないか答えられなかったんだ」

「自分の力で計画を立てて、
それを実行することが大切なんだ」

「途中でうまくいかなくなったら、
また計画を立て直せばいい」



こうして子うさぎは、
またひとつ大きな「宝物」をリュックにしまうことができました。

小さかった子うさぎたちも、
お兄さんうさぎとみまちがうくらい大きくなりました。
そして久しぶりにみんなで「宝探しゲーム」をやってみることにしました。

ところが前よりずっとうまくいくと思ったゲームが、
ちっともうまくいきません。
そこで一人ひとり思っていることを
紙に書いて話しあうことにしました。

「ぼくの考えではね…」
「ぼくならこうするな…」
「その方法よりこっちの方が…」
「こうすればもっといっぱい集められる…」
「………」
「………」



すると「宝物を見つける」という目標は同じでも、
一人ひとりいろんなやり方があることがわかりました。
そして「あれがいい」「これがいい」と話しあううちに、
自然とみんながひとつになってできる方法を見つけることができました。

「じゃあ、こうすればどう」



「それがいいよ」

「きみはどう思う」

「ぼくもそのやり方がいいな」

こうしてうさぎたちは、
みんなの力を出しあってものごとを進めるむずかしさ、
そして楽しさという新しい宝物を
それぞれのリュックに大切にしまいました。



すっかりお兄さんになったうさぎは、
家に帰るのも忘れるほど一生懸命働いていました。

でもそんな毎日をくり返すうち、
「ただ働いていてもつまらない」と悩むようになりました。
宝物もなかなか増えません。

先輩うさぎに相談すると、
パンの粉ひき職人の話をしてくれました。

一人は
「粉をひく仕事だ」といい
一人は
「おいしいパンをつくる仕事だ」といい
一人は
「みんなの毎日を支える仕事だ」といったんだ。
いまの君なら、自分の仕事をどう答える？



そうか
「なにをしているかだけでなく、
なんのためにしているか」
がとても大切なんだ！

この日をきっかけに
宝物もまたグングン増えていきました。



それからしばらくして、かつての仲間たちと
また「宝物」の発表会をすることになりました。

「仕事をするのは、ごほうびが欲しいからじゃない」

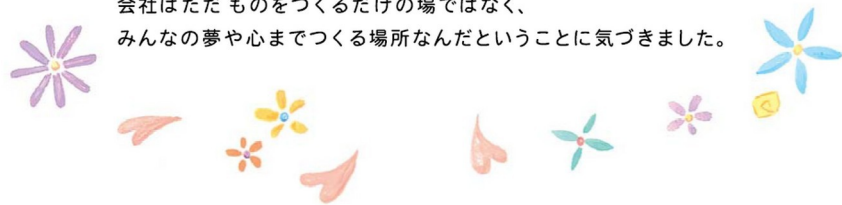
「成功を信じてせいっぱい努力すること」

「目標に向けてみんなと力を合わせる事」

「自分の仕事だけでなく全体を考えると」

「私たちのつくったものを、みんなが喜んでくれること」

発表が進むにつれ、
自分たちのしてきたことのすべてが「宝物」なんだ。
会社はただものをつくるだけの場ではなく、
みんなの夢や心までつくる場所なんだということに気づきました。



そういう気持ちで

「宝物」のことを話すみんなを見ていると、
うれしそうな笑顔がどこから来るのか、
新しい発見もありました。

「よくみつけることができたね」

「よかったね」



「こっちの宝物と
いっしょにするともっといいよ」



「素晴らしい宝物だね」



「ありがとう、ほくもっとがんばるよ」

そうだ。宝物を見つけて喜ぶ自分のそばには、
いつも仲間や先輩たちがいてくれた。
みんなも自分のことのように喜んでくれるから、
あんなにもうれしそうな笑顔になれるんだ。
この発見も「宝物」としてそっとリュックにしまいました。

すっかり大人になったうさぎは
お休みの日、家族みんなで旅行に行くことにしました。
というのも自分が元気で働けるのは、
家族みんなが応援してくれるおかげだからです。



「みんなはどこに行きたいんだい」
「ぼくはね…」「わたしは…」
「じゃあ、みんなの希望がかなう所に出かけよう」

以前は自分の意見を伝えることに一生懸命うさぎでしたが、
会社での「宝物」が増えるにつれ、家族や友だちの意見や気持ちも
自然と大切にできるようになっていました。

またある日、自分の一番大切な宝物

「自分らしくやる大切さ」を二人の子どもたちにも伝えたいと考えました。

そこで公園に行き「ジャングルジムに登ってごらん」といいました。

一人は一直線にっぺんまで登りきりました。

もう一人はグルグル回りながらっぺんに到着しました。

「まっすぐ登ると早いよ」

「とちゅうでいろんなものを見られたよ」

そこでうさぎは

「まっすぐでも回り道でも、
自分のやり方で登ることが
大切なんだ。」

どっちも自分らしく登ったから、
それぞれちがう「宝物」を
見つけることができたんだよ」

と教えました。

最初のころに比べると、うさぎたちの会社もずいぶんにぎやかになりました。

仲間たちの数も増え、リュックも大きいものから小さいもの、

色形もいろんなものが増えました。

でもみんなリュックの大きさに勝ち負けを競ったりしません。

「そのリュック素敵だね。
なにが入ってるの？」



「わたしの宝物を分けてあげる」



「自分らしい宝物かどうか大切さ」

「大きさは関係ないさ、
なにが入っているかだ」



「いまに素晴らしい宝物を入れるんだ」

「宝物」も大切だけど、

その人らしく見つけようとするのはもっと大切だと
みんなが思うようになっていたからです。

だから空っぽのリュックを背おった子うさぎでも、
胸をはって自分のリュックを誇りに思えました。



ある日うさぎが森を歩いていると、
ずっと昔に「その世界を見たい」と会社を離れ、
森を出ていった幼なじみとばったり再会しました。
そこで「その世界でなにを見つけたんだい」と聞いてみました。

「最初は何にもかも楽しかった。
大切なリュックも
なくしてしまったくらいさ。
お金がなくなったときだけ働いて
ほうほうを旅したよ」

「でも、だんだん仕事を任されないこと、
だれも自分の考えを聞いてくれないことが寂しくなったんだ」
「会社にいたときは、宝物の発表会も宝探しゲームも
めんどろだと思っていたけど、
自分らしさをみんなに認めてもらえるって
本当に素晴らしいことだって見直したよ」

ちょっと恥ずかしそうに話す幼なじみの背中には、
真新しいリュックがありました。



いつの間にかうさぎはヒゲがのび、
耳の先にも白い毛が混じるようになったことに気づきました。
仕事でも若いうさぎたちの手助け役になることが多くなりました。
そして昔自分がしてもらったように、
リュックから宝物を取り出しては
他のうさぎたちに分けてあげるようになりました。



「お兄さんや仲間や家族、
みんなから宝物をもらったからぼくの宝物も増えたんだ」
「ひとりで集めた宝物じゃないから、価値があるんだ」
「ぼくの宝物も、みんなの役に立つといいなあ」



気がつくと森のどこにいても、他の森から来た動物にでも、
欲しがる人には分けへだてなく「宝物」を分けていました。
「もっとたくさんの人に宝物のことを伝えたい…」



満開のアカシヤの花につつまれ、旅立つことを決めたうさぎをみんなが見送ります。
いっしょに働きつづけた仲間の何人かは、ともに旅立つことになりました。
残ってもう少し働きたいと考えた仲間は、
見送りの列の中でちぎれるほど手をふっています。

「この会社において毎日が本当に楽しかった」
「いろんな宝物を見つけたりもらったりした」
「自分たちがしてもらったことを、
きみたちにもしてあげられたかな」
「これからもリュックの中の宝物が
引き継がれていく会社でありますように」
「みんなありがとう」

旅立ちの挨拶をしながら、どのうさぎも心の中で思いました。
「自分たちらしいって、本当に素晴らしくて大切なんだ」と。



あとがき

「リュックの中の宝物」を最後までお読みいただき、本当にありがとうございました。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、ここに出てくる会社とうさぎたちは「アイコクアルファとそのパートナー」がモデルです。私どもは、一人ひとりの自己実現を大切にしたいと考えています。会社をただ利益追求のための労働の場にしない、パートナー全員がそこで有意義な時間を送れる人生の場にしたい。このような考え方は、より厳しさを増す21世紀の競争社会にそぐわないのではというご指摘・ご心配ももっともなことと思います。

しかし、「人間」や「仕事」をめぐる状況が厳しさを増す今だからこそ、もう一度私たちの「なによりも大切なのは、自分らしく生きること。そして生きられる環境(職場)を守ること」との気持ちをこの絵本に託したいと製作いたしました。ぜひ、ご意見ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

最後に、

「自分らしさを創造する楽しさ」

「自分らしさを発揮する楽しさ」

「個々の自分らしさが他にどのように影響するかを知る楽しさ」

「仕事を通じて社会に役立っている充実感」

「自分らしさの発見・創造・行動」

このような喜びが、すべての働く人達の喜びとなるよう願ってやみません。



リュックの中の宝物

定価1,050円(本体1,000円+税)

2004年8月 第1刷

2010年11月 第5刷

作/アイコクアルファ株式会社 デザイン委員会 絵/城ますみ 構成・レイアウト/有限会社クリエイティブオーツ

発行所/アイコクアルファ株式会社 本社〒495-8501愛知県稲沢市祖父江町森上 電話/0587-97-1111(代) FAX/0587-97-1177

URL <http://www.aikoku.co.jp> E-mail webmaster@aikoku.co.jp 制作/丸善名古屋出版サービスセンター

©Aikoku Alpha, 2004. Printed in Japan

NDC 913 40p 21.6×21.6cm ISBN978-4-89597-335-9

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製転載することは、法律で認められた場合を除き、著作権者の権利の侵害となりますので、その場合は予め小社まで書諾を求めて下さい。

ISBN978-4-89597-335-9 C8795 ¥1000E

